

令和6年度授業改善推進プラン（調査結果分析シート）

西東京市立明保中学校

全国学力学習状況調査（中学校第3学年）

	課題が見られた問題の概要	正答率	調査結果を踏まえた成果	調査結果を踏まえた課題
国語	話合いの中の発言について説明したものとして適切なものを選ぶ。	48.8%	・全ての問題で全国の正答率を上回る結果となった。 ・東京都の正答率を0.4%下回った問題が1問あったが、それでも78.0%の正答率である。その1問以外は全て東京都の正答率を上回っていた。 ・授業では毎回意見交流の時間を設け、生徒が教材に興味・関心をもてるように組み立てている。その成果が出たと考える。	・意見と根拠など情報と情報との関係について理解できるようにする。 ・本文と図を結び付け、その関係を踏まえて内容を解釈できるようにする。 ・話合いの話題や展開を捉えながら、他者の発言と結び付けて自分の考えをまとめることができるようにする。 ・短歌の内容について、描写を基に捉えることができるようにする。
	本文中の図の役割を説明したものとして適切なものを選択する。	48.8%		
	話合いの話題や発言を踏まえ、「これからどのように本を選びたいか」について自分の考えを書く。	49.6%		
	短歌に詠まれている情景の時間帯の違いを捉え、時間の流れに沿って短歌の順番を並べ替える。	52.0%		
数学	18Lの灯油を使いきるまでの「強」の場合と「弱」の場合のストーブの使用時間の違いがおよそ何時間になるかを求める方法を、式やグラフを用いて説明する。	30.7%	・全ての問題において、東京都や全国の正答率を上回る結果となった。 ・習熟度別少人数授業を通して、個に応じた指導を行っている成果といえる。 ・生活の身近な問題を教材とすることで、生徒が数学に興味や関心をもって授業に取り組めるような工夫を行っていることも成果といえる。	・図形や関数の分野では、身近な事象を数学的に捉えられるようにする。 ・問題解決の方法を数学的に説明できるようにする。 ・データの活用の分野では、複数の集団のデータの分布の傾向を比較して読み取れるようにする。 ・比較や検討した結果、その判断の理由を数学的な表現を用いて説明できるようにする。
	点Cを線分AB上にとり、線分ABについて同じ側に正三角形PACとQCBをつくるとき、 $\angle AQC$ と $\angle BPC$ の大きさについていえることの説明として正しいものを選ぶ。	33.1%		
	車型ロボットについて「速さが段階1から段階5まで、だんだん速くなるにつれて、10cmの位置から進んだ距離が長くなる傾向にある」と主張することができる理由を、5つの箱ひげ図を比較して説明する。	40.2%		
	点Cを線分AB上にとり、線分ABについて同じ側に正三角形PACとQCBをつくるとき、 $AQ=PB$ であることを、三角形の合同を基にして証明する。	40.9%		